

新米教師のつぶやき



連日の猛暑ですっかり夏バテモードですが、みなさんはいかがお過ごしでしょうか。日本語教師デビューから早くも1年3ヶ月が過ぎ、僕の中で日本語教師という仕事に対する捉え方が少しずつ変わってきました。僕が勤務させていただいている日本語学校は4学期制で、春学期（4～6月）、夏学期（7～9月）、秋学期（10月～12月）、冬学期（1月～3月）に分かれています。夏学期の3分の1が終わろうとしている今、日本語教師としての課題に直面しています。それは何かというと「**体力**」です。もちろん授業実践や問いかけの質といった指導に関する課題も山積みですが、それ以上に**日本語教師としての体力不足を痛感**しています。「去年はそんなことなかったのか？」と言われると、若干はありましたが、当時は**日本語教師という仕事に楽しさを感じていた気持ち**が上回っていました。（もちろん今もとっても楽しいです！！）では、なぜこの1年3ヶ月が経過した段階で自分の体力不足に気づいたのかというと、それは担当している授業のコマ数と担当教科が2年目になってから段違いになったためです。

'24 夏学期

	月	火	水	木	金
1・2					
3・4					
昼休み					
5・6			聴解		
7・8			聴解		

'25 夏学期

	月	火	水	木	金
1・2			日comm		
3・4	記述・漢字語彙		読解		
昼休み					
5・6	日comm		発信表現		
7・8	日comm		発信表現		

この時間割を見てもわかるように、去年の夏学期からコマ数が約4倍に増え、担当させていただいている教科のバリエーションも増えました。若干2年目の新米教師にこれだけ任せていただけることは大変ありがたく、日々感謝の気持ちをもって勤務しています。その反面、これだけのコマと科目を担当するには、去年の体力では持続できないことに気づきました。僕は筋トレがあまり好きではないのですが、どうやら**筋トレも日本語教師に必要な**ようです。そして、もう1つの課題が「**休養**」です。担当するコマ数と科目が増えると、休日のほとんどが授業準備と学生の提出物チェックで終わります。それ自体は好きなので精神的な苦しみは全くないのですが、気づいたら体を休める時間がなく、7月はほぼ毎日何かしらの薬を飲む日々でした……。現在、**日本語教師としての「体力」と「休養」が新米教師にとって最大の課題**として立ちはだかっていますが、これは日本語教師を長く続けるためにもクリアすべき課題だと思っています。とは言うものの、無趣味な僕には休養方法がよくわからず、みなさんのおすすめの休み方を教えてほしいです（切実）……。

ランチョンセミナーが開催されました

7月31日（木）の昼休み、国際文化学研究科キャンパスD棟603教室にて本年度第2回目のランチョンセミナーが開催されました。今回は湖北大学（中国）副教授の張晶鑫先生をお招きし、「中国で日本語を教える：現状と展望」というタイトルで、中国で大学教員として働くことを考えている学生向けにご講演いただきました。**中国で現役大学教員として働かれているリアルな声**を聞くことができ、大変参考になるセミナーでした。次回の開催については決まり次第お知らせしますので、ぜひご参加ください！



ご講演される張晶鑫先生

